

令和3年（2021年）8月の大雨特定災害対策本部会議（第6回）
議事録

日時：令和3年8月18日10：58～11：27

場所：中央合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：【本部長】 防災担当大臣
【副本部長】 副大臣（防災担当）
大臣政務官（防災担当）
内閣官房 危機管理監
【本部員】 内閣府 政策統括官（防災担当）
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）
内閣府 男女共同参画局長
警察庁 警備局長
(代理：警備運用部長)
総務省 大臣官房長
総務省 総合通信基盤局長
(代理：総合通信基盤局電気通信事業部長)
総務省 自治行政局公務員部長
消防庁 次長
消防庁 審議官
財務省 大臣官房審議官（危機管理担当）
文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部長
(代理：大臣官房文教施設企画・
防災部参事官（施設防災担当）付
災害対策企画官)
厚生労働省 大臣官房危機管理・医務技術総括審議官
(代理：大臣官房審議官（医政、医薬品等
産業振興、精神保健医療担当))
農林水産省 大臣官房危機管理・政策立案総括審議官
(代理：大臣官房地方課長)
経済産業省 大臣官房技術総括・保安審議官
国土交通省 水管理・国土保全局長
国土交通省 大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官
国土地理院 参事官
(代理：総括測量・防災官)
気象庁 気象防災監
海上保安庁 海上保安監
(代理：総務部参事官)
環境省 環境再生・資源循環局長

(代理：大臣官房サイバーセキュリティ・
情報化審議官)

防衛省

【内閣府調査チーム】

統合幕僚監部総括官

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（災害緊急事態対処担当）付

企画官

1. 開会（内閣府政策統括官（防災担当）により議事次第に沿って議事進行）

2. 被害状況等の報告について

<気象庁>

資料に沿って説明

- ・気象の見通しについては、今までと大きく変わってはいない。
- ・西日本から東日本にかけて非常に激しい雨が降っている所があり、これまでの記録的な大雨により、土砂災害の危険度が非常に高まっている所や、増水している河川があるという状況。19日にかけて、大気の状態が非常に不安定となるため、西日本から北日本にかけて、非常に激しい雨が降り大雨となる所がある見込み。
- ・18日21時の予想天気図では、前線上を低気圧が北海道の東の海上付近までに進み、前線は九州北部から日本海沿岸、北海道付近まで伸びるかたちになる。この低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、上空には寒気が流れ込む見込みであり、大気の状態が非常に不安定となり、前線の活動が活発な状態が続く見込み。19日には日本の東の高気圧が勢力を強め、前線の活動は次第に弱まるものの、その後も大気の状態が不安定なところが残る見込み。
- ・18日は、西日本から北日本の広い範囲で、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる見込み。また、19日は、広い範囲で長い時間雨が続くというよりは、局地的に比較的短い時間、雷を伴った激しい雨が降るといった降り方に変わってくる見込み。
- ・降水量は、明日の朝6時までの24時間に、九州南部で200ミリ、四国で180ミリ、東海で150ミリ、その他の地方で100ミリ前後の雨量を予想している。その後の24時間では、四国で100から200ミリ、近畿で100から150ミリ、その他の西日本から東海の地域で50から100ミリを予想している。
- ・18日は広い範囲で大雨の警報級となる可能性が高い状況だが、19日から前線の活動が弱まるということで、徐々に警報級の可能性も下がってくると予想している。
- ・引き続き、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒をいただきたい。また、非常に大気の状態が不安定なため、竜巻などの激しい突風や落雷にも注意をいただきたい。
- ・2枚目の資料には、直近の24時間の降水量を示している。九州南部、四国、

近畿、東海、岐阜県北部等多いところで 200 ミリから 300 ミリの雨が降っているという状況。降りはじめの 11 日からのトータルの雨量は、1,000 ミリを超えたところが広がってきている状況。報道でも言われているが、所により年間の降水量の半分程度がこの期間に降っているという状況になっている。

- ・ 3 枚目の天気図について、この期間では、前線の活動は次第に弱まってくるという状況ではあるが、上空に寒気が入っている状況で、大気は不安定である。いわゆる台風一過のように、一気に天気が回復するというのではなく、少し不安定な状況が残る。徐々に回復していくものと予想している。引き続き各地の地方气象台から適切に情報発信し、しっかりと防災対応していきたい。

3. 被害状況及び各省庁の対応状況等について

<内閣府政策統括官（防災担当）>

- ・ 人的被害については、死者、調査中死者、行方不明者、安否不明者が昨日の 17 名から 19 名に増えている。一部重複があるかもしれないが、現在確認中である。
- ・ 建物被害については、浸水家屋がだいぶ積みあがってきた。4,200 棟を超える家屋が浸水被害を被っている。
- ・ 各省庁の対応は、それぞれ体制を敷いているところであるが、災害救助法適用市町村の数が 6 県 18 市町にまで増えてきている。
- ・ 河川の状況については、61 の河川で氾濫が起きている。
- ・ 全国で 118 件の土砂災害が確認されている。
- ・ ライフラインは、停電が 390 戸、水道はだいぶ減って 160 戸で、応急給水を実施中である。
- ・ 交通関係は、高速道路、直轄国道、鉄道に施設被害が認められている。
- ・ 避難については、全体の数は前日とあまり変わらず 2,200 名ほどの方々が避難をし、特に広島県、佐賀県などで多くの方々が避難生活を送っている。

<警察庁>

資料に沿って説明

- ・ 昨日の人的被害について、①の長崎県雲仙市の土砂崩れの現場で捜索に当たっていた警察がご遺体 1 体を発見した。行方不明になっていた 2 人のうちの 1 人と判明している。
- ・ ⑬、⑭の福岡県、鹿児島県それぞれで 1 体のご遺体が発見されている。なお、⑭の鹿児島県の方については、本日死者認定されたと承知している。
- ・ 本日も引き続き、捜索活動等を継続するとともに被害発生に備えて即応体制を保持する。
- ・ なお、資料に記載のとおり、被災地のパトロールや避難所での警戒、声かけなどの活動も継続し、住民の方々の不安解消に努めているところ。

<消防庁>

- ・広島県東広島市の田んぼを見に行き帰らない人についてはまだ見つからず、本日も捜索活動予定。
- ・広島市の車1台が川に転落。海上保安庁において海上で1人発見され、救出し死亡を確認したが、本事案との関係は精査中である。
- ・警察庁の発言でもあったが、長崎県で1名救出され、死亡が確認されたが、自治体の方で災害との関連を精査中である。
- ・熊本県人吉市の球磨川で流された方は見つからず捜索活動中である。
- ・福岡県飯塚市の建花寺川で人が流されているということで、男性だが、身元と災害関連かどうかを現在調査中である。
- ・警察庁からあったが、鹿児島県日置市で80歳代の女性がトイレに行ったきり戻らないということで調べたら、側溝で倒れていたということで死亡が確認されているが、災害との関連を現在調査中である。
- ・昨日来ずっと議論になっている土砂災害警戒情報が出されている市町村での避難指示について、消防庁で現時点すべて確認したが、土砂災害警戒情報が出ている64のうち、静岡市と愛知県豊川市の2つが高齢者等避難にとどまっている。静岡市については、水位の状況を見て現在は高齢者等避難にとどまっているが、いつでも避難指示発令の準備はできているとのこと。愛知県豊川市については、総合的に判断して気象状況も見ながら、現時点では高齢者等避難としているとのこと。

<海上保安庁>

資料に沿って説明

- ・九州西方及び瀬戸内海西部に、ヘリコプターを搭載した大型巡視船を配備しているので、臨機応変に対応していきたい。
- ・気象状況を勘案し、フレキシブルに対応していく所存である。

<防衛省>

資料に沿って説明

- ・引き続き自治体への連絡員の派遣、初動対処部隊の待機など厳重な警戒態勢を維持しているところ。
- ・雲仙市について、本日も要員約30名の態勢をもって捜索活動を継続している。
- ・佐賀県の六角川の災害派遣の状況について、昨日まで行っていた住民への食料の配布については地元の消防に引き継いだ。
- ・県において自衛隊に対する新規のニーズについて確認中ということなので、部隊は現地で待機している状況。

<国土交通省>

- ・まず水管理・国土保全局から申し上げる。

- ・現時点で氾濫が確認されたのは全国で 19 水系 61 河川、それから土砂災害は 23 都府県で 118 件となっている。順次地方から報告が上がってきているため、まだ確定値ではない。
- ・ちなみに 3 年前の西日本豪雨と比べると、西日本豪雨では約 300 河川で河川の氾濫があったが、ワンオーダー低くなっている。土砂災害についても広島県を含めて 3,000 件ほどあったがこちらもワンオーダー少なくなっている。
- ・国の河川の氾濫は 2 河川であり、3 年前は 22 河川であった。これについて雨の降り方やこれまで実施した対策の効果等について検証していきたい。
- ・一昨日来、話をしている、土砂災害警戒情報と避難指示の関係については、今朝 9 時時点で、土砂災害警戒情報が発表されているのが、12 県 64 市町村あり、その中で、避難指示が未発表となっているのが 3 県 4 市 ある。
- ・うち 1 市については、対象地域が山岳地域であり、対象区域に人家が無いことを確認しているため、避難指示が未発令であっても特に問題ないが、残る 3 県 3 市について状況を確認すると、土砂災害警戒情報は予測情報であり、もう少し雨の降り方等の実績や予測を見たいということのようだ。これは、気象庁と都道府県砂防部局で、予測も含めて危険だということを出しているため、その判断は任せていただき、避難指示を適切に出していただきたい状況である。消防庁からも各県の消防防災部局に対して助言いただいているところであるが、もしかするとこういったところが被災すると、これまでと同じようなことを繰り返してしまうことがある。そのほかにも、土砂災害警戒情報の発表から避難指示の発令までに 10 時間以上かかっている市町村もあるということで、発表してから避難指示をできるだけ早く出していただきたいところであるが、躊躇しているような事例が 3 県 3 市以外にもあるということでこら辺についても引き続き内閣府や消防庁を含め関係者でまたしっかり対応していきたい。現時点では県の方からかなり言いただいているが、そういうところがあるというご報告にとどめさせていただく。
- ・公共交通関係について、鉄道の施設被害が現時点で出ており、その他の被害は特にない。
- ・6 事業者 9 路線 11 箇所、鉄道の施設被害が確認されており、昨日の報告以来、新たに長野県の JR 東日本の中央線で 2 箇所の土砂流入、広島県の JR 西日本の呉線で、トンネル内浸水の被害が確認されている。現在も雨水の状況を踏まえながら、点検を進めている状況である。
- ・復旧までに時間を要する見込みの箇所がいくつかあり、広島県の JR 西日本の山陽線、長野県のアルピコ交通については、バス等による代替輸送を現在行っているところである。また、JR 九州の久大線、佐世保線等では、代替輸送の実施に向けた調整を進めている状況である。
- ・運行については、本今朝時点で、運転を見合わせている路線が 13 事業者 33 路線ある。
- ・航空輸送については、空港施設に引き続き被害は出ていない。昨日は、8 便の

欠航があったが、本日はまだ欠航の予定は現時点で聞いていない。

- ・旅客船、バスについても、引き続き運休は発生しているものの、規模は縮小しつつある状況である。

<厚生労働省>

資料に沿って説明

- ・水道について、最大で3,964戸断水していたが、今朝現在で4県160戸まで、復旧をしている。今後については、9事業者残っているが、広島県北広島町においては降雨が続いており、水道管が損壊した箇所が土砂崩れの恐れがあるということで、復旧作業に入れていない。それ以外については、順調に進んでいる。引き続き、安全を確保しながら、迅速な復旧に努めたい。
- ・福祉施設関係について、昨日の段階で浸水被害等が9施設あったが、今朝の段階で、高齢者、障害者、児童の関係14施設に増加している。これらの施設のうち浸水被害があったものについて、入居者がいる所については、全て避難済みということで対応している。引き続き、緊張感を持って、対応していく。

<経済産業省>

資料に沿って説明

- ・電力について、一旦月曜日に停電はほとんど解消したが、天候が悪化したところで、新たに小規模な停電が散発している。電気設備に被害が出ている訳ではないので、停電は長期化しないと考えている。早期復旧に向け、電力会社としっかり対応していく。

<環境省>

資料に沿って説明

- ・廃棄物の処理施設については、現在施設稼働に影響がある被災報告はない。
- ・災害廃棄物関係については、昨日までに、仮置場を開設した市町は、4市町村となっている。被害の大きい久留米市のほか、複数市町でも、本日から仮置場を開設するという報告を受けている。
- ・環境省では、現地に職員を派遣しており、昨日は岐阜県に、本日は佐賀県と長野県に派遣し、仮置場の運用等について助言を実施している。
- ・今後も、大雨の回復を待ちつつ、情報収集に努め、災害廃棄物の適切な処理に向けて尽力していく。

(報道関係者入室)

<棚橋特定災害対策本部長>

- ・今回の大雨により、今朝8時時点で、お亡くなりになられた方が6名、さらに、お亡くなりになられた方で災害との関連を調査中の方が8名、行方不明の方

が3名、安否不明の方が2名などの人的被害が報告されている。

また、多数の住家被害も報告されている。

- お亡くなりになられた方にお悔やみを申し上げるとともに、お怪我をされた方、またお亡くなりになられた方々のご家族、関係者の方々に心からお見舞い申し上げます。被災されたすべての方々に改めてお見舞い申し上げます。
- 被害状況も明らかになっています。本部員の皆様におかれては、被災された方々や被災自治体の声にしかりと耳を傾け、政府一体となってライフラインやインフラの早期復旧と被災者支援に取り組むようお願いする。
- 西日本から北日本では、明日にかけて雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となるところがある予報となっている。
- これまでの雨により、土壌中の水分量が多くなっている地域では、さらに大きな災害がいつ起こってもおかしくない状況が続いている。
- これまでも、警察・消防・自衛隊・海上保安庁などの警戒活動・救助活動により、多くの命が救われている。本部員の皆様には、長丁場となっているが、引き続き、人命最優先、人命を第一に、万全の体制を確保されるようお願いする。
- 市町村長の皆様におかれては、国や県の河川・砂防部局や气象台との連携を密にし、人命第一という観点から空振りを恐れず、避難指示や緊急安全確保等の避難情報を適切に出してください。
- 現在、人家があるところで土砂災害警戒情報が出ていながら避難指示や緊急安全確保の避難情報を発出していない自治体もあると聞いている。
- 繰り返しになるが、くれぐれも人命第一で空振りをおそれず避難指示や緊急安全確保等の避難情報をどうか適切に出していただくよう心からお願いをする。
- 都道府県知事の皆様には、住民への周知などについて、市町村の支援をお願いする。避難生活が長期化する中、新型コロナウイルス対策をはじめ、避難者の健康管理についても、十分な配慮をお願いする。
- 国民の皆様におかれては、河川や水路、土砂崩れのおそれのある斜面など、危険な場所には近づかず、少しでも危険を感じたら躊躇せずに避難するなど、命を守る行動をとってください。明るいうちの安全な場所への避難、家族や知人への積極的な声かけもお願い申しあげる。
- このような気象が続き、心身ともにお疲れのことと存じるが、何よりも命を守ることが大切であることは言うまでもない。命を守るという観点から避難情報や気象情報等に留意し、避難を継続したり、再度避難したりするなど、警戒感を緩めないよう強くお願いする。

(報道関係者退室)

5. 閉会